

町田市観光まちづくり基本方針（素案）の概要

1 方針策定の必要性

人口減少時代の到来により地域活力の低下が懸念される中、「観光」を切り口に地域活性化を目指します。

「観光」を進めるうえで取り組みの担い手として市民（団体や事業者を含む）の力が不可欠であることから、「なぜ町田市で観光に取り組むのか」、「町田市はどのような観光を目指すのか」を明らかにし、その理解のもと行政と協働で「観光」に取り組みます。

2 町田市の「観光」を取り巻く現状

- ・観光を楽しめるまちというイメージを持たれていない
- ・市民が市内の観光資源をあまり訪れていない
- ・交通の要衝にあり有名な観光地にも行きやすい立地にある
- ・観光資源をめぐるガイドツアー参加者の満足度が高い
- ・一部の地域では地域住民によるおもてなしが来訪者に好評である
- ・地域活動に参加している市民が少ない
- ・まちへの愛着、誇りを持っている市民の割合が近隣市と比較して低い

3 町田市の「観光」の目指すべき方向性

- ・町田を観光で訪れ有意義な時間を過ごしてもらう
→来訪者が町田を訪れてよかったと思えるまち
- ・来訪者を地域住民がもてなし、町田ならではの体験を提供する
→地域住民と交流でき、町田ならではの体験が得られるまち
- ・来訪者に有意義な時間を提供し感謝されることで地域住民に喜びを感じてもらう
→地域住民が住んでいてよかったと感じられるまち

4 町田市の「観光まちづくり」の将来像

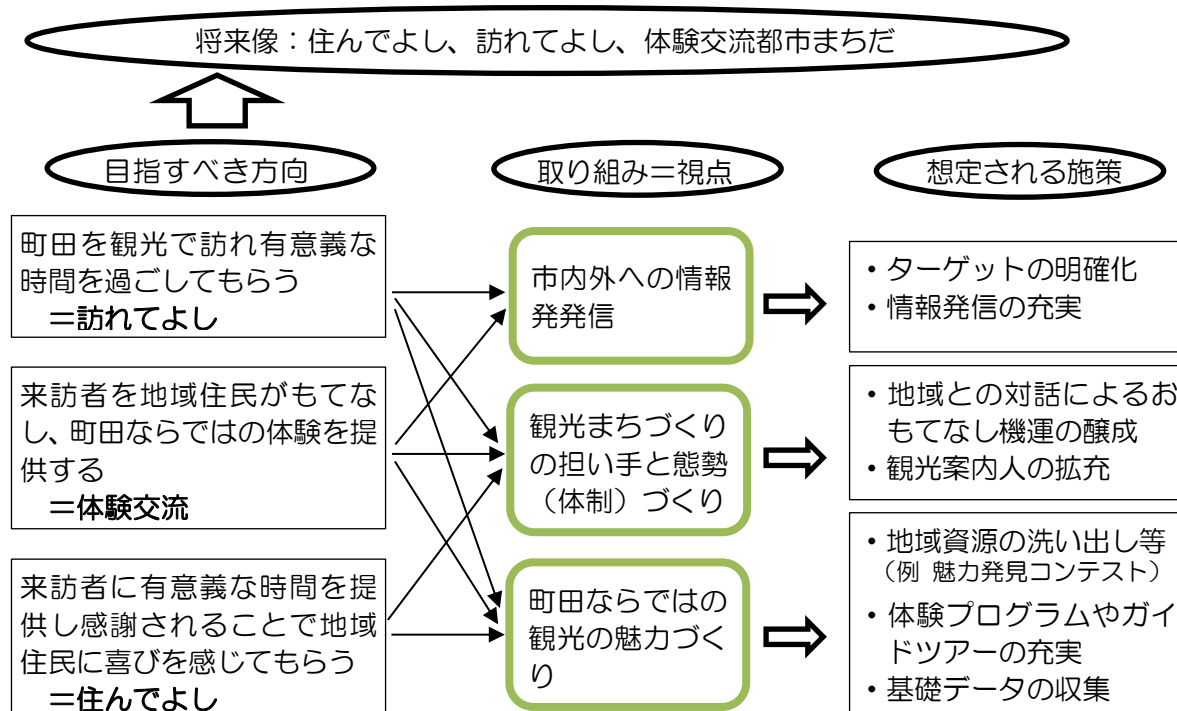
市民が主体となって観光振興とまちづくりの両面から自分の住む地域を見つめ直し、地域が持つ歴史、自然、文化などの観光資源を磨き、活用し、おもてなしを通じて町田ならではの体験を来訪者に提供する「**観光まちづくり**」を目指します。

この「観光まちづくり」を進めることにより、市内で観光を楽しむ人を増やし、市民にとっては地域に愛着を感じ住み続けたいような、来訪者にとっては市民によるおもてなしに価値を感じ、何度も訪れたいようなまちを実現します。

住んでよし、訪れてよし、体験交流都市まちだ （=地域活性化が図れた状態）

5 町田市の「観光まちづくり」の将来像を実現するために

本方針は、「将来像」と、将来像を実現するための取り組み＝「視点」で構成します。



6 方針の期間内における将来像の達成目標

本方針の期間を、2017年度から2030年度までの14カ年とします。

この期間中、概ね5年程度を目安に進捗状況を検証し、識者の意見も聴取しながら必要に応じて方針の見直しを行います。

進捗状況を判断するために必要となる各視点の短、中、長期の達成目標を以下のとおりとします。

	短期目標 (概ね 2021 年度まで)	中期目標 (概ね 2026 年度まで)	長期目標 (2030 年度まで)
視点1 市内外への情報発信	魅力発信の工夫により、多くの市民に町田の魅力が届いている	市民だけでなく市外の人にも町田の魅力が届いている	町田で観光を楽しんだ人自らがその体験を情報発信している
視点2 観光の担い手と態勢（体制）づくり	来訪者をおもてなしする担い手が増えている	おもてなしする体制の中で世代交代が進んでいる	市内全体で来訪者をおもてなしするような態勢になっている
視点3 町田ならではの観光の魅力づくり	今ある資源の魅力の洗い出し、掘り起しができている	地域住民が資源の価値を直接伝えることで、魅力がさらに引き出されている	人や生活、文化も含めた地域そのものが魅力となっている

7 「観光まちづくり」を進めることによって期待される副次的効果

- ・市内観光を楽しむ人が増えることによって、市内消費の拡大や新たな雇用創出が期待される
- ・観光まちづくりの担い手が増えることによって、地域の歴史や文化を継承する素地ができる
- ・市外からの来訪者が町田の魅力を知ることによって、町田市に住んでみたいと思うきっかけになる